

四王寺山勉強会

四王寺山の歴史や文化遺産を学習し、その魅力を発信している市民グループで、平成20(2008)年に発足しました。現地の文化遺産を調べたり、昔の話を地元の住民などから聞き取り調査する中で、四王寺山のさまざまな魅力を再発見してきました。太宰府市民遺産第3号「かつてあった道 四王寺山の太宰府町道」の育成団体としても活動しています。



会ではこれまでに、『四王寺山のビューポイント』『四王寺山三十三石仏 現況調査報告書』『太宰府旧蹟全図に描かれた四王寺山』など、四王寺山に関わる文化遺産や調査成果を紹介する報告書を作成しています。



<育成活動内容>

- ・三十三石仏の定期的な見守り活動をおこない、太宰府市や宇美町、四王寺県民の森センターなどの関係団体と情報交換をおこなう。
- ・会で作成した関連資料、散策マップなどのPRツールを活用して広く四王寺山の三十三石仏を知ってもらおう活動をする。
- ・現地を案内するウォークや、講師等を招いての学習会の開催をとおして、三十三石仏建立の物語と文化遺産を伝えていく。



太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・コト(文化遺産)。これを将来に伝えたいと思う物語と、それを守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切だと納得したものです。

【市民遺産の例】

石碑と地元の
人々の物語

石碑などの
関連する
文化遺産

石碑を守る
人々の活動



認定されている
太宰府市民遺産
15件
(2020年2月現在)

し おう じ やま さん じゅう さん せき ぶつ 四王寺山の三十三石仏

太宰府市民遺産：第15号
認定：2019(令和元)年8月26日
景観・市民遺産育成団体：四王寺山勉強会
発行：太宰府市景観・市民遺産会議
太宰府市教育委員会
発行日：2020(令和2)年2月29日



太宰府市民遺産ロゴマーク

<http://市民遺産.jp>



太宰府市民遺産

第15号

四王寺山の 三十三石仏



十二番札所・千手観音座像
(イラスト:広野 司)

四王寺山勉強会



大宰府政庁跡から見た四王寺山

大宰府政庁の背後にそびえる四王寺山は、古来祈りの山、聖地であり、その歴史をつなぐかのように山の尾根線上(大野城跡の土塁上)を中心に、33の石仏から成る観音霊場が造営されています。

石仏建立の物語

江戸時代後期(寛政年間)、博多で洪水や大火事、流行り病などの凶事が続くことができました。このような状況のなか、姿を自在に変えて人々を救済する観音菩薩の御利益にあやかろうと、博多の浜口町などの主だった人々が思い立ち、そこに宇美・太宰府の心ある人々も協力して、西国三十三ヶ所観音霊場にならった石仏めぐりの札所が宇美町・太宰府市・大野城市にまたがる四王寺山一円につくられたといいます。その建立は、順路を含めた山林の開拓など諸々困難を越えての大事業だったと伝えられています。



▲220年あまり四王寺山に佇み人々を見つめてきた素朴な石仏の語りかけるような表情



▲像を寄進した太宰府の人物名や地名が石仏の台座などに刻まれているものもある

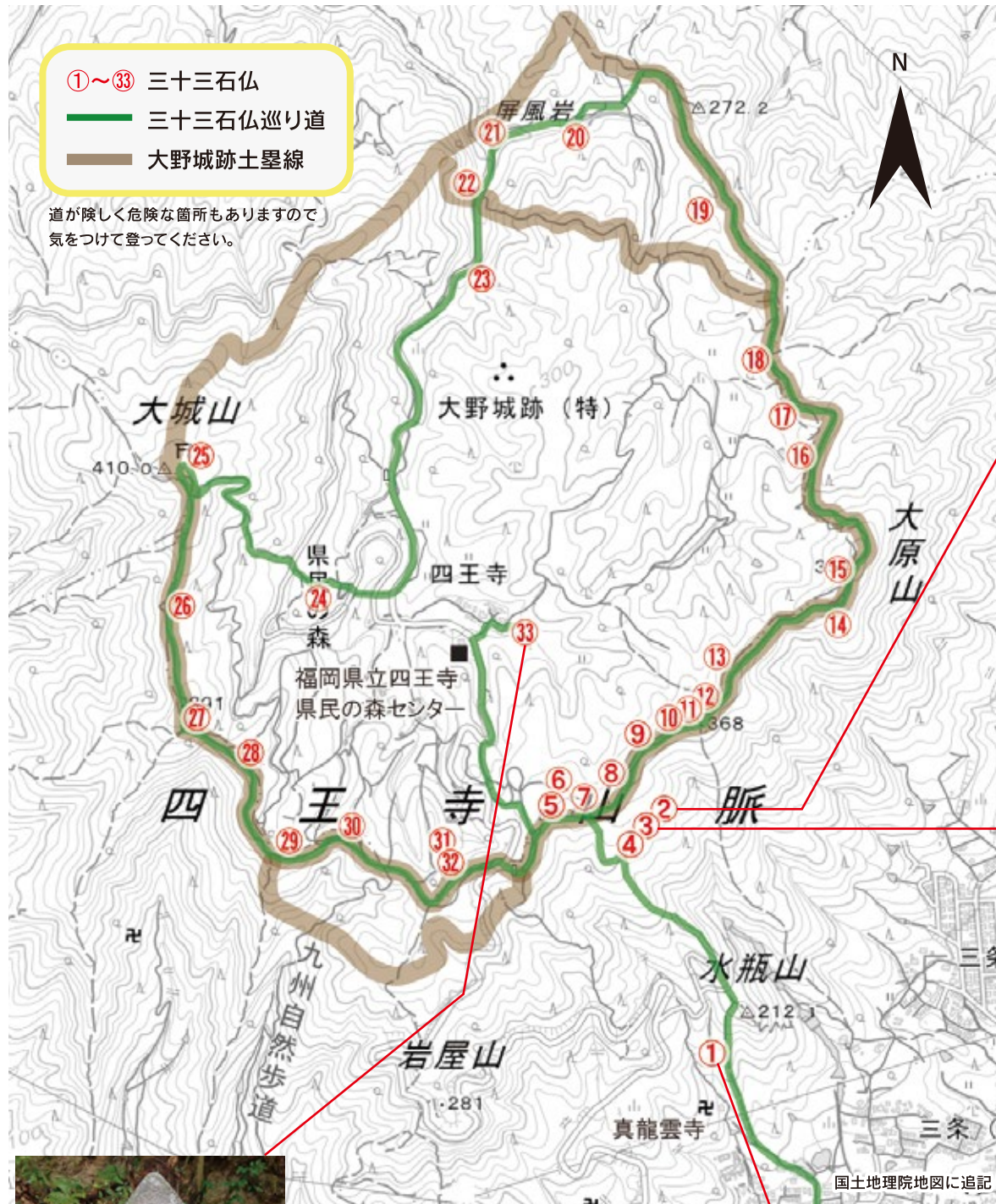
三十三石仏のこれまでといま

江戸時代に置かれた四王寺山三十三石仏は、あまり記録はありませんが、昭和初期の観光案内パンフレットに紹介され、千人詣りもおこなわれるなど、一時期は盛んに参拝されていました。

現在でも、さい銭や花がお供えされており、三十一番札所・聖観音では、「子どもを守ってくれる仏様」として家族連れでお参りしている姿を見ることがあります。



三十一番札所をお参りする親子連れ



①～③③ 三十三石仏
 三十三石仏巡り道
 大野城跡土塁線

道が険しく危険な箇所もありますので
 気をつけて登ってください。



▲二番札所・十一面観音立像

岩場に守られ損傷が少なく、頭上の十一面もよく見ることができます。この場所からは眺めがよく、南には耳納連山の山影を見ることができます。



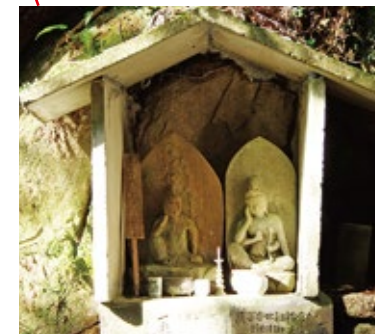
▲三番札所・千手観音立像

三十三石仏の中で唯一の磨崖仏(岩肌に彫られた仏像)。

像の左にも刻銘があり、寛政12(1800)年7月に博多浜口町の立石亦六という人物が寄進したことが記されています。

◀三十三番札所・千手観音立像

霊場の結願札所は四王寺集落の中の見渡せる高台にあり、台座には、太宰府の地名・「連歌屋」と刻まれています。



◀一番札所・如意輪観音座像

左側が当初に建立された像で、台座に「太宰府 柴田市次」と刻まれています。右側の像は昭和の初めに真龍雲寺の堂主によって祀られたものです。